

# Premium night for Ikata

全ての伊方原発が止まった夜に、  
キャンドルを灯して、お祝いしましょう。

1977年9月30日に、1号機が運転を始めました。それから、2号機、3号機も含めて、伊方で、原子力の火が消えたことはありません。伊方原発は、35年間、自然を蝕み、生命を脅かし続けてきました。

その伊方原発が、フクシマの惨事により、2基停止しています。そして、1月中旬の定期検査で、現在稼働中の2号機が止まり、3基とも停止します。



**2012年1月21日(土) ごご8時から**  
**電気を消して、ご家族と、ご友人と、キャンドルを灯して、**  
**スローな夜を10分間過ごしましょう。**



ごご8時に、「原発さよなら」と声を掛けて電気を消して、キャンドルを灯して下さい。ご家庭でも、職場でも、野外でも、どこでも、誰とでも。原発のない時を、大好きな人たちとお過ごし下さい。

乾杯もいいし、歌ってもいいし、祈ってもいいですよ  
ね。

**私たちは2度と伊方原発を動かさない。**  
**世界中の生命が、**  
**豊かな自然のなかで、健やかにその生命を生きていくために。**

**Presented by** 愛媛有機農産生協

**放射能はお金では無くせません。きれいな水、空気、大地はお金で買うことはできません。全ての原発を止めれば、福島の子どもたちは二度と被曝することはありません。**

2012年1月14日に伊方原発は全基停止し、四国の原発発電量はゼロになりました。県民世論調査では9割超が原発の安全性に不安を感じており、63%が再稼働に否定的です(2011.9. 11 愛媛新聞社)。

福島県での原発事故を「人ごとじゃない」と感じる一人ひとりの声が原発の再稼働を止める力です。福島第一原発の原子炉には人が近づくことができず、燃料がどうなっているかもわかりません。放射性物質の流出も止まらず、被害者の救済も進まず、将来への見通しも立っていません。この悪夢は人ごとではなく、地震国に住み、活断層が目前にある伊方原発のある愛媛県でも、いつ起こってもおかしくない現実です。再稼働NO!の声をあげましょう。 原発さよなら四国ネットワーク